

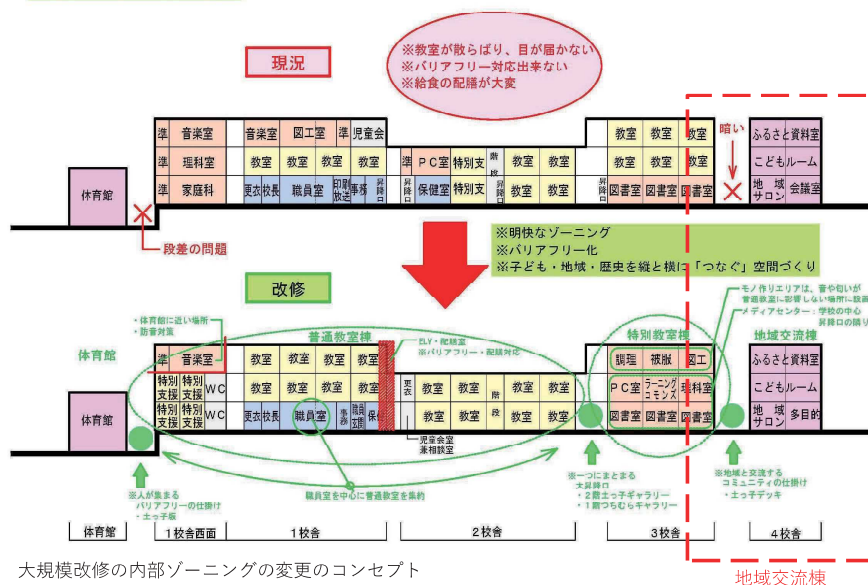
共創-03 <学校は、地域や社会との共創の場になる>

共創-03-01_コミュニティ・スクールの拠点になる場

大規模改修時に地域開放エリアを再編

千葉県柏市立土小学校 | 既存校舎の長寿命化改修に当たり、施設の目指すべき姿の一つとして「地域とともにある学校づくり」を設定。地域の方々が利用する諸室を集約した地域開放エリア「地域交流棟」を整備（改修）した。

内部ゾーニングについて ※子ども・地域・歴史を縦と横に「つなぐ」空間づくり



多目的室で開催されたおかねの仕組み教室（スクール形式）



多目的室で開催されたマッサージ教室（グループごとの形式）

「学校施設の教育環境向上を図る改修等に関する課題解決事例集」
（令和5年5月、既存学校施設改修等の技術的課題検討会）
https://www.mext.go.jp/a_menu/shisetu/seibi/1372577_00003.htm



独立棟を「地域交流棟」と位置づけ、「地域サロン」・「多目的室」・「PTA室」等が配置され、平日だけでなく休日にも地域の方々が入ることができる。普通教室棟・特別教室棟との間には、児童と地域との交流スペースにもなる「土っ子デッキ」を設けている。

実現プロセス：

過去に増築を繰り返した校舎内のエリアを整理

- ・学校は2023年（令和5年）で開校125年。地域住民が学校の活動に対して協力的で、学習活動や学校行事の支援、環境整備などを担っている。2022年（令和4年）にコミュニティ・スクールを導入。
- ・施設の教育環境の向上と老朽化対策を一体的に進めるため、市の改修モデルとなるように、教職員、保護者、地域住民が参画したワークショップを複数回開催した。
- ・過去に校舎の増築を繰り返し、諸室の配置や動線について教育面での関連性が希薄な状態であったことから、普通教室エリア、特別教室エリア、管理諸室エリア、地域開放エリアの4つのエリアに整理した。

「地域交流棟」に地域住民の活動場所を集約

- ・休日を含む地域交流団体の充実した活動と学校のセキュリティを両立させるため、管理諸室や普通教室のエリアから独立した「地域交流棟」に地域関連諸室を集約。さらに、地域による利用が多く見込まれる諸室を1階に配置。
- ・地域交流棟1階にある「多目的室」は、教育活動だけでなく、地域の方々による様々な活動にも対応できるよう、2教室分の広さを確保し、机・椅子などは可動式のものを配置。
- ・普通教室棟と地域交流棟の間に図書室等の特別教室を配置し、特別教室を地域と共有することも視野に入れている。

地域を教材とした学びを実践

- ・地域の代表、地域の幼稚園園長、地元企業、キャリアコンサルタント、PTA代表、学校支援コーディネーターが集まる学校運営協議会は、「地域交流棟」の多目的室が会場となる。話し合った内容を基に、学校運営協議会委員が中心となって、地域を教材とした教育課程づくりを進めている。
- ・総合的な学習の時間には、児童が、ふるさと資料室（「地域交流棟」3階）にある「昔の道具」について地域住民から教わるとともに、学んだことを地域の方や他の地域の方にも紹介する機会を設定し、児童の意欲や伝える力の向上が図られている。
- ・平日の短縮日課の期間には、地域住民や保護者による体験教室が開催されている。「おかねの仕組み教室」ではスクール形式、「マッサージ教室」では講師を囲うように座るなど、2教室分の広さと机・椅子が可動式であることを生かして、様々な活動が展開されている。
- ・地域開放を目的に掲げたエリアが校内にあることで、教職員や児童の間に、普段から地域住民とともに教育活動を進めていく意識が醸成されている。
- ・地域にとっても、ウォーキングイベントのコースに学校が加えられるなど、地域の誇りや魅力の再発見につながっている。

学び-05-01_柔軟な学びの場と居心地よい読書空間の両立

屋外デッキに面した図書室は、子どもたちの居場所

木造校舎を活かした「木育カリキュラム」

富山県魚津市立星の杜小学校 | 新築の木造校舎で行う教育活動のテーマを「木育」とし、地域にとって大切な木について子どもたちが自ら気づき、考えることを実践するワークショップを継承。

実現プロセス：

3 小学校の統合に合わせて木造 3 階建て校舎を新設

- ・星の杜小学校は、3つの小学校の統合によって新たに開校するに当たって、既存校舎では教室数が不足するため、全国初となる3階建て木造校舎を新設することになった。

学校完成後も空間づくりの経緯を継承するカリキュラム

- ・新校舎のデザインは、多くの地元産材を使用し、周辺環境になじむように設計。
- ・「学校が上手に使い続けられるために、施設完成後も学校空間づくりの経緯が継承されていることが大切」という設計者の想いから、校舎完成後に、設計者が関われなくなっても地域の研究者が長く関わり、学校の教職員によって継続可能な教育づくりのワークショップを作り上げることを目指した。
- ・新校舎の床や壁の施工時には、子どもたちも職人とともに「フローリングのデザイン」「壁の塗装」「木パネルづくり」「土壁づくり」を体験した。「土壁づくり」では統合前の3校のグラウンドの土を材料に用いており、材料調達から製作までの流れを体験した。
- ・4年生から6年生の総合的な学習の時間を活用し、校舎完成後の木育カリキュラムの一つとして、学校を使い続ける中で外壁の傷みやすい箇所とそのメンテナンス方法を学ぶワークショップを計画し、地域の職人が先生となって毎年度実施している。



全国初の木造3階建ての小学校

●環境-01-03_自然共生 自然素材の活用



木材をふんだんに活用したメディアセンター大階段



体育館で外壁の塗装を行った



校舎完成後も、塗装職人のサポートのもと外壁メンテナンスを行う



木のパネルの彫刻



木のパネルは卒業記念に持ち帰る